

地元産出の雄勝石を使った石絵教室で、子どもの情操教育と町おこしを目指す。

日本全国で使用されている玄昌石の90%は、宮城県の雄勝町から産出されている。その石をキャンバスにして、子どもたちが絵を描くというイベントが開催された。主催した石絵教室実行委員会は、子どもたちの情操教育や郷土愛の醸成、さらには町おこしも視野に入れながらこのイベントを企画した。

雄勝石に着色して

子どもたちが壁画に仕上げた。

宮城県には「雄勝石(おがついし)」という特産の石がある。黒色の玄昌石(粘板岩)の一種で、硯(すずり)や建築物の屋根スレートなどに使われるといえおわかりだろう。東京駅の駅舎の屋根にも使われているように、雄勝石は肌目も美しく優雅さも持ち合わせている。

石絵作家の齋藤玄昌實さんは、この石に絵を描き、新しい芸術分野を切り開いた。

「雄勝石は宮城の宝として世界に誇れる。多くの人にその魅力を知って欲しい」と齋藤さんは語る。今は地元でも雄勝石を知らない人が多い。齋藤さんには、子どもたちに雄勝石を使った絵を描いてもらい、後世に伝えたいという願いがあった。

そこで、かねてより親交のあった菅井哲夫さんとともに、石絵教室実行委員会を作ることになる。もっとも大きな障壁は資金だった。雄勝石を使った壁画作りや石絵教室、展覧会などの企画にAJOSCから助成を受けることになった。

壁画作りは、まず蔵王町宮小学校と石巻市雄勝小学校の児童が齋藤さんの指導を受けながら、20センチ四方の大きさにカットされた石に着色していく。塗るのはアクリルの絵の具である。子どもたちは水彩との違いに最初はとまどっていたようだが、徐々にピッチをあげていった。



完成した壁画「蔵王連峰とお釜」(左)と「太平洋と金華山」(右)



多数の児童が参加した石絵教室の様子

そして2009年8月10日。仙台市青葉区のせんだいメディアテークで、バラバラだったスレートが組み合わされ、横3m、縦2mの壁画となって完成し、除幕式が行われた。

「蔵王連峰とお釜」「太平洋と金華山」と題した石絵はそれぞれの小学校の地元の風景が描かれたものである。

参加した子どもたちからは

「どんな絵になるのだろうと思っていましたが、こんなに素晴らしい絵になって感動しました」という声が多く聞かれた。



見る角度によって色が変わり様々な表情を見せる石絵

担当者より



長年の夢を
ついに実現することが
できました。

石絵教室実行委員会
菅井哲夫さん

何度か企画を立てては予算のめどが立たず開講できなかった石絵教室を、助成を受けて実現することができました。非常に厳しい経済状況の中にあつて、文化振興や子どもたちの育成のために活動されている皆様の勇気と愛情に心を打たれます。心より感謝いたします。

「雄勝石の魅力を皆さんに知っていただけたことと、子どもたちに絵を描くのは紙と決まったものではなく、いろいろなものに描くことができるということを知ってもらえたことがとても嬉しく思います」と齋藤さんは語る。

一方、この企画を推進した実行委員長の菅井さんは「これを機会に郷土に誇りをもって欲しいし、町おこしにつながればと願っています」と満足そうに話してくれた。雄勝石は無尽蔵に近いほどの埋蔵量がある。これまでに見つかるニーズが見つかれば、菅井さんの願いも夢ではなくなるだろう。現在、東京駅の復原工事が進んでいる。今回は一度別の産地の石が選択されたが、やはり品質的に雄勝石でないとうまくいかないことがわかり、再び採用されることになったそうだ。東京駅を訪れたら、屋根のスレートにも注目していただきたい。

2億5千万年かけて生成された石の実力。

せんだいメディアテークではそれから3日間、石絵教室が開かれた。参加を希望した46人の子どもたちは、思い思いのテーマで石絵を描いていった。同様の教室が9月4日～6日に石巻市ナリサワギャラリーでも開催された。こちらには26人の児童が参加した。その他の入場者数は双方あわせて2,200人となかなかの盛況ぶりだ。

さらに石絵教室での作品は翌年の1月15日から1週間、仙台市エルパークに展示され、多くの市民に雄勝石の名前をあらためて印象づけることになった。一方、前述の2枚の壁画は、それぞれの地区の文化施設に永久保存され展示されることになっている。

あらためて石絵を眺めてみると、肌目が作品に味わい深い効果を与えているのがよくわかる。凹凸の中に色が入り込み、見る角度によって反射する色が変わるので、1枚の絵がさまざまな表情を見せるのだ。壁画では、山の部分は縦や斜めの肌目を使い、海の部分は横の肌目を使って趣の違いを際立たせている。そのために、子どもたちが自由な筆遣いをして統一感のある作品になっている。雄勝石は地中で2億5,000万年かけて生成された、自然と年月が作り出した神秘でもある。



蔵王町民ホールに展示された壁画